



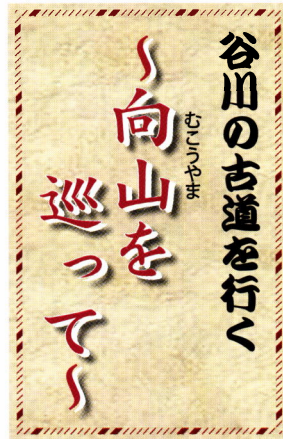
第 13 号

発行

天津地域振興協議会
総務企画部編集委員会

印刷

米子ワークホーム



赤いベンガラを塗った頭蓋骨が出土した遺跡古墳のある春日山に、連なるように南へ続くならかな丘陵の「向山」。人々はこの小山に親しみを込めて、「向山（むこうやま）」と呼ぶ。グリーンタウン四季に近い北側の方が春日山である。谷川と坂根を隔てている向山の山裾を縫うように、その昔は街道があった。

起伏は大きかったが、結構それなりの道幅があったようだ。

今では木々に埋もれ、消えた所も多く、わずかに残る細道からは往時も想像できない。

向山の南端（谷川山崎地区）には墓地が並び、その下が街道であった。境界に三界萬霊塔が六地藏と並んで威風堂々と建ち、往時の名

残を留めて郷愁を誘う。

また、現在の谷川峰バス停、馬場池の脇から墓地下を通って坂根へ抜ける小ちんまりとした道が今も残り、これも古道街道の跡地である。坂根の桑名家と隅田家の間に現存する道幅（約3m弱）が往古の街道幅を示すものだという。人の往来は活気を生み、地域発展を醸す。人が生きる糧に『道路』はなくてはならない貴重かつ不可欠なもの。

現在の国道R180号線の原型が整った明治十九年より遙か昔。向山の山裾を人馬が行き交った。人と人を結び、華を咲かせ実を付ける交流があった。



右：坂根方面
左：谷川を経て米子方面の
街道分岐点にあります



人馬の往来が盛んで、行き来に必要な道幅もあった、と言い伝えられています。

文、画：野口 宣友

あの人この人

今回は、全国を飛び回り活躍
されている画家を紹介します。

坂根出身 加藤 哲英さん

私はよく「絵はどこで学んだの
ですか。」と聞かれます。

私は答えます。「特別に努力し
ていません、たまたま生まれつき
絵が上手なだけです。」誰でも他
の人に比べ優れている点が一つ二
つあります。私は絵を多少うまく
描けるだけです。

現在、美術の様々な団体の代表



第57回 光陽展 (2009)
「天 平 の 春」

をしたりお世話をしています。先
日も鳥取県美術家協会の代表とし
て、韓国 of 春川市で交流美術展を
開催して帰りました。また、全国
団体の光陽展の委員として会の運
営、審査に関わり各地に出かけま
す。また、米子美術家協会会長と
して、地元美術界の牽引役として
の活動を実行し、昨年は日本海新
聞で『西部人物展』を連載し本を
発行し、今年 is 山陰中央新報で
『法勝寺電車』を連載し終えたこ
ころです。

色々ありますが、地元が好きで
天津が好きです。

いきいきサロン紹介

谷川 おもひ会

おもと会の会員は、現在十五名
です。皆さんの要望を聞きながら、
何をしようかと六人の世話人で話
し合い、毎月の会を開催していま
す。

普段は公民館で、手芸をしたり、
警察の方に、防犯・交通安全につ
いてお話してもらったりしていま
す。

また、『笑い教室』ということ
で、大きな声を出して、「わっはっ
は」と言うと言行の流れも良くな
り、体もリラックスするという運
動もしています。

恒例行事としては、四月に富田
山壮へ花見に出かけたり、七月に
子ども会と一緒に「七夕さん」を
したりしています。短冊に思い思
いの願いを書いて、子ども達に笹
の飾り付けをしてもらいます。

九月に入り、みなさん畑仕事が
忙しくなってきましたが、公民館に
集まって楽しくお話してきたらと
思っています。

(世話人代表 野口 幸子)

立派な七夕飾りができました！



願い事は何を書こうかな？



母塚山は、神話（古事記）で日本を創造されたイザナミの埋葬地とされ古来より神が宿る山として知られています。

この山を一周する山道に、お大師・薬師如来の石仏を一对として八十八ヶ所にお地蔵さんが安置されています。

昭和七年に、柏尾地区のお大師さん信仰をする代表四人が發起人となり、一体二円五十銭の寄付を募り大師像と薬師像を母塚山登山道に寄進しました。四国巡礼八十八ヶ所が母塚山で巡れると、戦前までは巡拝者も多かったようですが、戦後は少なくなり野仏となっていました。そこで、見かねた柏尾地区の有志で、石仏周りや参道の下刈りが行われました。これを機に毎年四月二十九日（昭和の日）に、区民有志がお大師さんの道草刈りをし仏を守られています。また、昭和五十三年には石仏を調査し、裏に彫られている寄進者を記録されました。

今回、知らない人の多い『母塚山八十八ヶ所お地蔵さん巡り』を、ふれあい部（野口みどり部長）が企画し、八月七日（日）十五名が参加し、柏尾区の方の案内で巡拝をしました。

当日は炎天下でしたが、樹林の山道で木陰に守られ、時折林間を吹き抜ける涼風や小鳥のさえずりに癒されながら、中間地点（標高二七六m）の山頂に着きました。

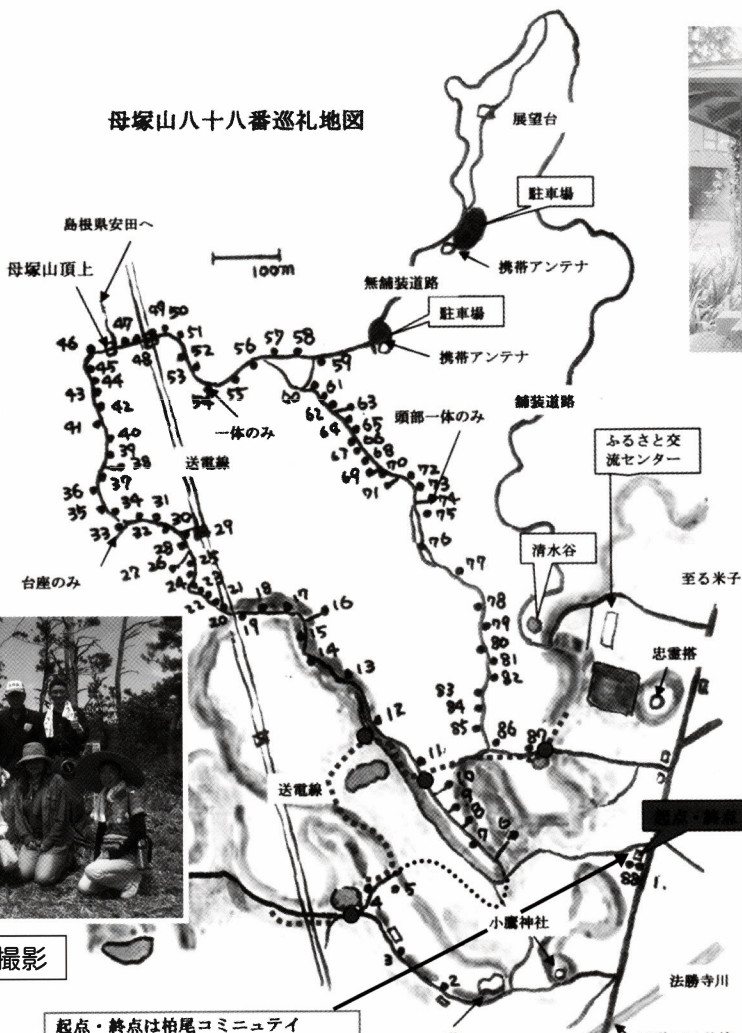
しばし眼下に一望できる南部町を眺めながら、お茶とおにぎりで休憩をしました。下りは、背中を押されるように、緑鮮やかな木の葉の細道を、お地蔵さんを巡拝しながら下りていき、無事八十八番の振り出しの境内に帰りました。

参加者のほとんどがお地蔵さんに出会うのは初めてで、お盆前に先祖のいい供養ができましたと話され充実した一日となりました。

（野口 隆資）



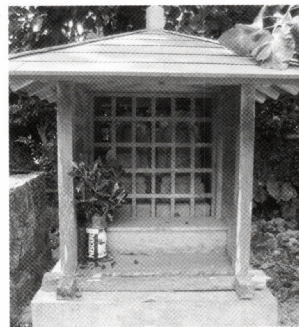
頂上 47番



起点・終点は柏尾コミュニティ



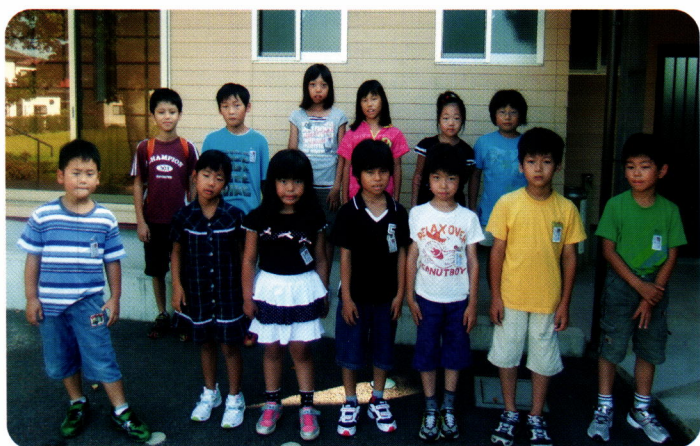
起点 1番



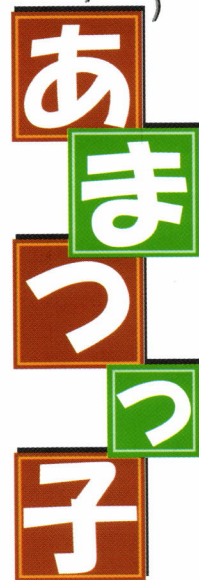
終点 88番



折り返しの頂上で記念撮影



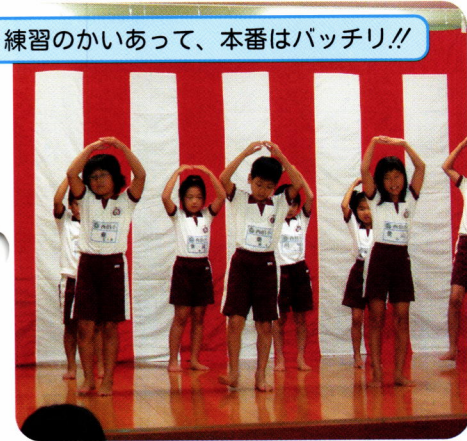
上阿賀の子ども会は、現在十世帯十四名の会員です。一、二年生が八名とその大半をしめ、賑やか過ぎるくらい元気あふれる子ども会です。



「田んぼの神様ごじゃらっしゃい」の掛け声で

あり、子ども会で集まる機会が多くあります。昨年度のお楽しみ会は、新しくなった公民館で親子お泊まり会を行いました。お父さんの参加も多くあり、カレー作り、肝試し、花火と盛りだくさんでした。寝起きを共にすることで、親子ともにさらに交流を深めることができましたように思います。

また、毎年七月十四日には、上阿賀区をあげての一大イベント「祇園祭」が開催されます。今年度も六月より毎週練習を重ね、マルモリダンスと体操を組み合わせた出し物を発表しました。地域の方々にたくさんの拍手をいただき、



練習のかいあって、本番はバッチリ!!

子どもたちも誇らしげで充実した表情をしていました。最近の子ども達の遊びと言えば、ゲームを思い浮かべますが、上阿賀の公園では、大きな声を出して元気に子ども達が遊ぶ姿がよく見られます。これからも、同世代の仲間と、時にはぶつかることもありすが、たくさん一緒に過ごして、いい思い出を作ってほしいです。そして、今のつながりを大切に、未来の上阿賀を、南部町を盛り上げていくたくましい大人に育ってほしいと願っています。最後になりましたが、いつも地域の皆さまには温かく見守っていただきありがとうございます。今後とも、時には厳しく、時には温かく、親子共々よろしくお願ひします。(上阿賀育成会長 秦 真知子)



八月二十八日に行われた世界陸上男子百メートル決勝。多くの方がある期待を胸にテレビを見ていたことでしょう。

しかし、スタートした瞬間、ボルトは数歩走り天を仰いだ。フライングによる失格。

今大会は、世界歴代二位のタイソン・ゲイ(米国)が故障で離脱。前世界記録保持者のアサファ・パウエル(ジャマイカ)も故障で百メートルを欠場した。気持ちを高ぶらせるライバルの不在も集中力を欠いた一因かもしれない。

結果、ボルトの練習パートナー、ヨハン・ブレイク(ジャマイカ)が九秒九二で初優勝。

陸上トラック種目では昨シーズンからフライングを犯した選手が即、失格になるルールが国際的に適用され、世界選手権では今大会で初適用されている。

かつては一人一回のフライングが許されたが、その後、一つのレースで一人目のみが許され、二人目以降は別の選手でもすべて失格となっていた。

ルールはルールなので失格は当然だが、世界新記録を見てみたら気がする。

(編集委員 渡邊 悦朗)